

平成 20 年 7 月 24 日

F C T C 関係省庁連絡会議委員殿

(社) 日本小児科学会 会長 横田俊平
(社) 日本小児保健協会 会長 衛藤 隆
(社) 日本小児科医会 会長 保科 清

F C T C 第 1 6 条遵守についてのお願い

平成 17 (2005) 年 2 月に発効いたしました WHO たばこ規制枠組み条約 (F C T C) の第 16 条に、「未成年に対するタバコ販売禁止」と「タバコ自動販売機の段階的廃止」が明記されていることはご承知のことと思います。子どもの健康に関わる私たち三医学団体は、平成 18 年、平成 19 年にすでに F C T C 関係省庁連絡会議委員殿へ「タバコ自動販売機の撤廃の要望」をいたしました。今回はさらにタバコ自販機の深夜稼動自主規制の継続と、ココアシガレット (オリオン株式会社) の不許可に向けて要望いたします。

F C T C 第 16 条には「未成年者の興味を引くタバコ製品の形をした菓子、玩具その他の物の製造および販売を禁止すること」が明記されています。オリオン株式会社 (大阪市) のココアシガレット (商品写真別添) はまさにこの第 16 条に抵触する製品であります。昭和 26 年に発売された当時はタバコを取り巻く状況は現在とは大きく異なっていました。しかし、その後 50 年以上が経過し、タバコの害は世界的に明らかとなり” pandemic of smoking” (喫煙の大流行) とまで表現されるようになり、国内でも健康日本 21 では平成 22 年までに未成年者の喫煙をなくすことが目標とされています。

ピースタバコの箱に模したパッケージの中にタバコの形をしたお菓子が入っているココアシガレットの、製品企画コンセプトには「子どもは大人の真似をする」とあり、また子どもの大人への憧れをお菓子で具現化しており、看板商品であるとも言切っていますし (<http://www.orionstar.co.jp/sigarettosiri-zu.html>)、最近では子どもに商品名を連呼させるテレビコマーシャルも作成しています (<http://www.orionstar.co.jp/TVCM200805.htm>)。子どものうちからの喫煙開始はニコチン依存症になりやすく、その後の禁煙が難しいことや、各種タバコ病のリスクを増大させることはタバコ白書からも明らかです。子どもがたとえお菓子としてでもタバコの形をしたものを手に取り、吸うまねをすることに抵抗感がなくなることは、将来の喫煙者を増やすことにつながります。また、タバコの形をしたお菓子は、タバコは食べられるものと乳幼児に誤認させ、誤飲事故の原因物質として常にトップである一因とさせている恐れすらあります。このような F C T C 第 16 条に抵触するタバコの形をしたお菓子を、他の形に変更するようにご指導頂くことを要望します。

平成 9 年から始まったタバコ自販機による深夜販売の自主規制は、未成年喫煙防止の観点から全国に広がりました。しかしこのたびの成人識別 I C カード (タスポ) 導入を受け、この 8 月からタバコ自販機の深夜稼動自主規制解除という方針を全国たばこ販売協同組合が決定しました。タスポカードを持ってさえいれば子どもでも買える現在の状況では、人目につかない深夜販売の復活は未成年喫煙を必ず助長しますので、引き続きタバコ自動販売機の撤廃とそれまでの間の深夜販売の自主規制継続を要望いたします。

WHO 世界禁煙デーの今年のテーマが Smoke free youth (子どもをタバコの害から守る) ということからも、私たち子どもの健康と命を守る立場の団体として、関連省庁からオリオン株式会社と、全国たばこ販売協同組合への強いご指導をお願いいたします。



オリオン株式会社 ココアシガレット

平成 20 年 7 月 24 日

全国たばこ販売協同組合 殿

(社) 日本小児科学会 会長 横田俊平
(社) 日本小児保健協会 会長 衛藤 隆
(社) 日本小児科医会 会長 保科 清

平成 17 (2005) 年 2 月に発効いたしました WHO たばこ規制枠組み条約 (F C T C) の第 16 条に「未成年に対するタバコ販売禁止」と「タバコ自動販売機の段階的廃止」が明記されていることはご承知のことと思います。子どもの健康に関わる私たち三医学団体は、平成 18 年、平成 19 年にすでに F C T C 関係省庁連絡会議委員殿へ「タバコ自動販売機の撤廃の要望」をいたしました。今回はさらにタバコ自販機の撤廃とそれまでの間の深夜稼働自主規制の継続を、F C T C 関係省庁連絡会議委員と共に全国たばこ販売協同組合へも要望いたします。

平成 9 年から始まったタバコ自販機の深夜販売の自主規制は、未成年喫煙防止の観点から全国に広がりました。しかしこのたびの成人識別 I C カード (タスポ) 導入を受け、この 8 月からタバコ自販機の深夜販売の復活という方針を貴組合が決定されたと報道で知りました。貴組合では、今後は深夜の稼働時には、子どもたちの購入の防止のために、1 台 1 台の自動販売機について監視を行う予定がおありでしょうか。タスポカードを持ってさえいれば子どもでも買える現在の状況では、人目につかない深夜販売の復活は、未成年がタバコを買いやすい状況を作り出すのみであり、未成年喫煙を助長する恐れが非常に強いものと、私たちは危惧しております。このような理由で、私たちは、引き続きタバコ自動販売機の撤廃とそれまでの間の深夜販売の自主規制継続を要望いたします。

WHO 世界禁煙デーの今年のテーマが Smoke free youth (子どもをタバコの害から守る) ということからも、私たち子どもの健康と命を守る立場の団体として、子どもたちがニコチン依存症になっていくことを見過ごすことは出来ません。全国たばこ販売協同組合の方々の良識に期待したいところです。